

# ～中山間コミュニティに潜む「助け合いの力」の可視化～

平成26年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：過疎地域のニーズ・シーズ調査を基にしたストレングスの分析と  
住民主体の地域づくり

研究代表者：社会福祉学部 講師 菅野道生

課題提案者：社会福祉法人奥州市社会福祉協議会 会長 岩井憲男

研究メンバー：社会福祉法人奥州市社会福祉協議会 会長 岩井憲男

技術キーワード：中山間地域、地域福祉、地域コミュニティ

## ▼研究の概要(背景・目標)

過疎化と高齢化の進展する中山間地域の住民を対象に、生活上のことで「手伝って欲しいこと」「手伝えること」についての回答結果を分析し、地域に潜在する「助け合いの力」を実証的に検証することを試みた。住民の生活課題だけでなく、それに対応する住民の力も同時に可視化することが目的である。

## ▼研究の内容(方法・経過)

2015年の2月～3月に、岩手県A市内のイ地区(人口1,164人、382世帯、8行政区(集落)、高齢化率40.2%)とロ地区(人口539人、143世帯、6行政区(集落)、高齢化率38.2%)【H26.9.30現在】の全世帯を対象にアンケートを実施しそのデータを分析した。社協職員及び岩手県立大学の学生調査員による訪問面接法の併用によって423名(世帯)の回答が得られた(回収率=84.6%)。

## ▼研究の成果(結論・考察)

データ全体では調査した19項目の生活課題(例：雪かき、農作業の手伝い、庭の手入れ等)のすべてにおいて「シーズ(手伝える)」の数が「ニーズ(手伝って欲しい)」数を上回った。過疎と高齢化が伸展する中山間地域においても全体的に見れば生活課題に対応する住民の意思と力がコミュニティの内部に存在していることが示唆されたといえる。



表1 生活支援に関するニーズシーズのバランス分析

| 支援項目                  | 手伝って欲しい(ニーズ) |       | 手伝える(シーズ) |       | バランス<br>ニーズ/シーズ |
|-----------------------|--------------|-------|-----------|-------|-----------------|
|                       | 度数           | %     | 度数        | %     |                 |
| <b>①ニーズ大～中/シーズ大～中</b> |              |       |           |       |                 |
| 農作業の手伝い               | 160          | 37.8% | 161       | 38.1% | 0.99            |
| 草刈・庭の手入れ・水やり          | 139          | 32.9% | 184       | 43.5% | 0.76            |
| 雪かき                   | 95           | 22.5% | 142       | 33.6% | 0.67            |
| 通院の送迎                 | 42           | 9.9%  | 97        | 22.9% | 0.43            |
| おしゃべり相手               | 42           | 9.9%  | 80        | 18.9% | 0.53            |
| <b>②ニーズ小/シーズ大～中</b>   |              |       |           |       |                 |
| * 買い物の送迎              | 31           | 7.3%  | 121       | 28.6% | 0.26            |
| * ごみ捨て                | 20           | 4.7%  | 95        | 22.5% | 0.21            |
| * 電球交換                | 18           | 4.3%  | 108       | 25.5% | 0.17            |
| 粗大ゴミだし・家具の移動          | 31           | 7.3%  | 65        | 15.4% | 0.48            |
| 家の掃除                  | 27           | 6.4%  | 51        | 12.1% | 0.53            |
| 食事作り                  | 21           | 5.0%  | 40        | 9.5%  | 0.53            |
| * 役所手続きの代行            | 21           | 5.0%  | 64        | 15.1% | 0.33            |
| * 薬とり代行               | 19           | 4.5%  | 84        | 19.9% | 0.23            |
| <b>③ニーズ小/シーズ小</b>     |              |       |           |       |                 |
| 介護などの手伝い              | 22           | 5.2%  | 26        | 6.1%  | 0.85            |
| パソコンのアドバイス            | 17           | 4.0%  | 29        | 6.9%  | 0.59            |
| * 洗濯                  | 10           | 2.4%  | 34        | 8.0%  | 0.29            |
| ペットの世話                | 9            | 2.1%  | 26        | 6.1%  | 0.35            |
| 子供の一時預かり              | 8            | 1.9%  | 20        | 4.7%  | 0.40            |
| * 子育て相談               | 3            | 0.7%  | 16        | 3.8%  | 0.19            |

\*はシーズがニーズの3倍以上の項目

## ▼おわりに(まとめ・今後の展開)

サンプル全体の集計結果において、ニーズがシーズを上回る項目がなかった点は、都市部における同様の調査結果とは大きく異なっている。条件不利とされる中山間地域に潜在する「地域の福祉力」が数値で確かめられたことの意義は少なくないと考えられる。

他方で中山間地域では、同じ集落であっても住居と住居との距離が遠い(散居)、あるいは高低差がある等の物理的バリアが共助活動にとってもハードルとなることが考えられる。また、より小地域単位で見たときには、集落内部のシーズで対応しきれないニーズも発生しうることとわずかながら示唆された。そうした場合には、社会福祉協議会をはじめとした地域福祉推進主体の側には、集落を越えた共助活動のコーディネーション等の仕組みづくりも求められると考えられる。